文部科学省

【令和4年度版】

「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」
委託事業事例集

＜目　　次＞

○有害環境から子供を守るための推進体制の構築（ネットモラルキャラバン隊）

・東京都　(株)メディア開発綜研

○有害環境から子供を守るための推進体制の構築（ネット対策地域スタートアップ事業）

・石川県　小松市教育委員会

・京都府

・大阪府

○青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業

・兵庫県　(公財)兵庫県青少年本部

・東京都　(独)国立青少年教育振興機構

○依存症予防教育推進事業

・群馬県

・東京都　(NPO)全国薬物依存症者家族会連合会

総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室

ネットモラルキャラバン隊

低年齢層、小・中学生、高校生の子供を持つ保護者を対象としたシンポジウムを全国3ヵ所で開催。青少年をインターネットのトラブルや被害・加害から守るために大人たちは何ができるのか、当事者である子供たちを交え一緒に考えながら議論し、保護者に気づきを与える。

（実行委員会の構成）

実行委員長：
竹内和雄
兵庫県立大学　環境人間学部　准教授

委員：
上沼紫野　虎ノ門南法律事務所　弁護士
尾花紀子　ネット教育アナリスト
小原　良　安心ネットづくり促進協議会
普及啓発広報委員
加藤寿一　秋田市教育委員会　委員

事業の概要

主に保護者を対象とした情報モラルに関するシンポジウムの開催
・対象：全国3か所の保護者
1低年齢層（幼稚園、こども園）の保護者向け1か所
2小・中学生の保護者向け1か所
3高校生の保護者向け1か所
・実施地域：全国3か所
1大阪府（低年齢層の保護者向け）
2山梨県（小・中学生の保護者向け）
3香川県（高校生の保護者向け）
・実施主体　全国の各PTA様
・対象者　保護者および学校・教育関係者

事業のねらい

コロナ禍で変化した人々の生活も新しい生活様式として、すでに定着しつつある。インターネットの利用も各家庭、各学校で急速に進められた。しかしながら、家庭環境も個々に違うため、ネットを賢く正しく利用するという方向性に必ずしも一枚岩になれてはいない現状がある。保護者の中には、トラブルが起こった後の対処法があれば良いと考える保護者もいるが、デジタルタトゥーとしてネット上に情報が残るだけでなく、取り返しのつかない事態へと発展してしまうケースも散見されているため、いかに青少年がトラブルに合わずネットを利用していくことができるのか、その為に保護者は何ができるのか、引き続き考えていくことが重要である。青少年がトラブルに巻き込まれないために、我々大人たちに求められる取り組みとは何か、コロナ禍を経て今一度、関係各所の認識をアップデートする機会として、本事業を開催するものである。

事業の内容

令和4年度の本事業は3か所の開催はハイブリッド開催（リアル開催＋配信）が多くなった。
高校生の保護者向けにはテーマを「18歳成人への備え」として、「後払い」「ゲーム課金」など支払い周りを重点的に、トラブル事例を踏まえ、生徒たちも登壇してもらいシンポジウムを開催した。
小・中学生の保護者向けには山梨県での事前アンケートを基に、実情を踏まえながらネットに関する問題を扱った。県内の小学生、中学生にも登壇して持った。
低年齢層向けに新型コロナウイルスの感染拡大に伴い集会を認めない地域が多く、残念ながら保護者に直接語る場を設けることができなかったため、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の理事会で時間をもらい、取組み説明のほか次年度以降の開催に向け説明を行う形で代替した。

（9/10 香川県でのネットモラルキャラバン隊）

2022年9月10日（土）	2022年10月15日（土）	2023年2月10日（金）	2023年2月21日（火）
香川県	山梨県	大阪府	東京都
参加者約80名 （高校生の保護者向け）	参加者約80名 （小・中学生の保護者向け）	参加者約50名 （低年齢層の保護者向け）	参加者約200名

本事業の問合わせ先
株式会社メディア開発綜研　〒104-0031 東京都中央区京橋3-14-6 斎藤ビル2階　TEL:03-6263-2133
担当：西川（nishikawa@mdri.co.jp）

POINT1
各PTAの協力
香川県、山梨県の実施での例のように、都道府県のPTAと連携し、事業を実施している。そのため、保護者への事前のアンケートなどの実施が可能で、より具体的な実例を把握したうえで、対策、検討を行うことができることは本事業の強みである。

POINT2
幅広いテーマ設定
一口にネットの問題と言ってもその内容は多岐に渡る。本年度香川県での実施には現地の要望もあり「18歳成人」に焦点を当てた。こうした現地からの要望を踏まえた幅広いテーマ設定が可能である。

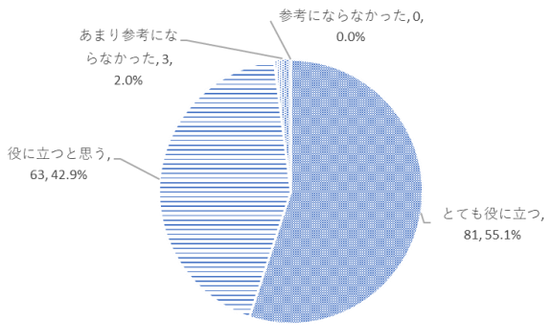
POINT3
継続した事業実施
啓発事業は単年ではその効果は薄く、内容をアップデートし続けながら、継続して実施していくことが重要である。本事業は前身事業を含めると平成23年度からの継続事業であり、保護者から得た情報や要望の蓄積が非常に多く積まれている。

（内容の続き）
1、香川県（高校生の保護者向け）
香川県はゲームの条例など注目された地域で念願の開催となった。コロナ禍にも関わらずリアル開催できたことは大きな収穫。内容は現地の要望により「18歳成人」をテーマとして、実際に消費者センターに寄せられたトラブル事例などを取り上げ、現地高校生とディスカッションを行った。「ゲーム課金」や「後払い」などのキーワードも上がり、非常に有意義なシンポジウムとなった。
2，山梨県（小・中学生の保護者向け）
山梨県はPTAのブロック大会で時間を設けてもらい、多くの保護者を対象として実施できた。実際に県内の小学生、中学生にも登壇してもらい、教員、保護者を交えディスカッションを行った。PTAによる事前アンケートの協力もあり、県内のリアルな情勢を踏まえてシンポジウムが開催できたことは、参加した保護者からも大きな評価を得たポイントである。
3，大阪府（低年齢層の保護者向け）
全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の理事会で時間を設けてもらい、「ネットモラルキャラバン隊」事業について説明した。全国の理事に本事業の有益性を理解してもらい、次年度以降の各県での開催を確実に遂行できるように努めた。当日はリアル25名、オンライン参加25名と、規模としては小規模の開催となったが、全国の理事にキャラバン隊を知ってもらうことで次年度以降に繋ぐ、いい機会だったと認識している。低年齢層向けにはいまだ新型コロナウイルスの影響が色濃く残っており、集会の開催が難しい状態が続いている。

（10/15 山梨県でのネットモラルキャラバン隊）

事業のねらいに対する成果

ネットモラルキャラバン隊では毎回参加者アンケートを実施している。香川県、山梨県、大阪府、3ヵ所合計での参加者アンケートでは、「とても役に立つ」「役に立つと思う」で90%以上となっており、その有益性を示すことができた。また、理解度として各講演の分かりやすさについても90%以上が「分かりやすかった」と回答している。
保護者からは「高校生のリアルな声を聞けて良かった」や「子どもと一緒に考えることが大切」などの声をいただき、気づきを与える事業として一定の成果を上げることができた。
ネットモラルキャラバン隊事業として各県PTAとの連携を取ることで生徒自身に登壇してもらうなどが実現できたことは本事業の強みであると認識している。



（参加者アンケート）

課題と今後の展望

今後の課題としては「講師育成」と「ハイブリッド開催への対応」の2点を挙げる。「講師育成」はこの事業の長年の課題である。一朝一夕には解決しない課題であり、尚且つネットの問題は多岐に渡るため、講師一人ではカバーすることが非常に難しい。現地の課題や要望を聞きつつ、より良いシンポジウム開催を目指すうえでどのような講師が適切か、毎回検討を重ねるが、新しい講師として適当な人材が見つからないのも事実である。多くの分野で調査・研究が進んでいるため、視野を広げ、多ジャンルの講師候補にも目を向けながら、講師育成を目指す必要がある。 もう一つの課題が「ハイブリッド開催への対応」である。本年度は3ヵ所全てでリアル開催を行うことができたが、ライブ配信もしくはアーカイブ配信ができないか、との声を多く頂いた。各県のPTAにご協力いただいている事業だけに、リアルでの参加者が限られている。それらを全国に視聴可能にすることが難しかった。また、登壇する生徒たちは問題ないか、周知方法、資料配布の方法、カメラなどの配信・録画機材の確保、伝わりやすさ等の課題もある。今後はよりハイブリッド開催やオンライン開催のニーズが高まることが予想されるため、リアル開催をベースに、源氏事務局と事前調整を行うことで、広く全国に届けていく必要がある。

（A4見開き2頁）

小松市小中学生サミット（石川県）

小松市では、市内全小中義務教育学校の代表児童生徒が集まり、いじめに関する問題を中心に、インターネット上の人間関係も含めたよりよい人間関係の構築について意見を交わし、具体的な取組を発信していく「小松市小中学生サミット」を開催することとした。その取組を通じて、よりよい人間関係を築くためにはどうしたらよいのか（ネットトラブルやいじめの未然防止を含む）を考え、児童生徒の自治的意識や主体性の向上を図る。

【実行委員会の構成】
- 小松市内小・中・義務教育学校32校の代表児童生徒
- 小松市内小・中・義務教育学校32校の担当教員
- 小松市教育委員会　学校教育課
- 小松市教育委員会　教育研究センター

（有識者）
- 兵庫県立大学環境人間学科　竹内和雄　准教授
- ソーシャルメディア研究会　学生

事業の概要

①市内小中学生を対象にいじめアンケートの実施
　対象：市内小学1年生～中学3年生（合計 8,552名）
②小中学生サミット実行委員会の開催（全3回）
　参加者：市内小中義務教育学校32校の代表児童生徒（108名）
　　市内小中義務教育学校32校の担当教員（32名）
③小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
　参加者：小松市長、市PTA連合会、小松市議会議員、
　　市内小中学生、市内小中教員、
　　市教育委員会関係（教育長、教育委員等）
　　合計191名参加
④情報モラル出前授業の実施
　市内小中学校　16校で実施

事業のねらい

小松市では、小中学生のネットトラブルの低年齢化が進み、いじめ等に発展する状況が見られる。そのため、この現状を小中学生自身が認識し、一昨年度よりサミットのテーマを「より良い人間関係を築くためには、どうしたらよいのか」とし、インターネットトラブルだけでなく、日常の人間関係構築も含めた内容について小中連携して話し合いを行ってきた。その中では、「いじめ」の原因が全国的に多様化しており、最近は、インターネットを介した「いじめ」が起きている。児童生徒自身が、身近な所で起きている自分たちの問題であることを認識し、主体的に問題解決に取り組むことで、サミットのテーマについて考えを広げ深めることができる。そこで、市内の小中学校の代表児童生徒が集まって意見を交わし、具体的な取組等を発信していくフォーラムとして、「小松市小中学生サミット」を開催する。

小松市内の小中学生からなる実行委員会で方策を立て、各学校に活動を発信していくことにより、児童生徒の自治的活動の活性化を図る。また、ファシリテーター役を担う小中学校教員の育成もねらいとしている。

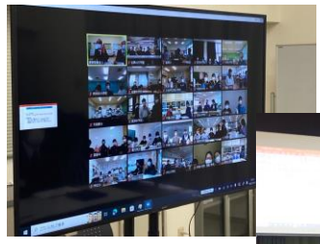
事業の内容

①市内小中学生を対象としたアンケートの実施
◇実施時期：令和4年5月
◇対　象：市内小学1年生～中学3年生（合計8,552名）
◇内　容：いじめ等に関する意識及び実態把握、インターネット使用時間、生活習慣等について

②小中学生サミット実行委員会の開催（全3回）
参加者：市内小中義務教育学校の代表児童生徒（108名）
　　市内小中義務教育学校の担当教員（32名）
　　小松市教育委員会関係者
アドバイザー：兵庫県立大学　環境人間学部
　　竹内和雄 准教授
　　ソーシャルメディア研究会　学生

■第1回実行委員会
日　時：令和4年8月25日（木）
場　所：小松市立芦城中学校　多目的ホール
内　容：◇実行委員の自己紹介、実行委員の交流
　　◇各小中学校取組状況の報告、取組内容についての協議

■第2回実行委員会（オンラインによる開催）
日　時：令和4年10月12日（水）
場　所：各小中義務教育学校、小松市教育委員会
内　容：◇実行委員の自己紹介
　　◇小中学生サミットの取組状況を中学校区で報告
　　◇アンケート報告による協議、実行委員の交流


オンラインでの様子
（第2回実行員会）

第1回実行委員会

本事業の問合わせ先
事務局：小松市教育委員会　学校教育課
　　石川県小松市小馬出町91番地
　　TEL：0761-24-8122　FAX：0761-23-3563　E-mail：gakkou@city.komatsu.lg.jp

POINT1
■児童生徒主体の実行委員会の開催
年2回の小中学生サミット実行委員会は、児童生徒が主体で会の進行等を行い、様々な意見交換や学校間交流がなされた。

POINT2
■小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
各学校のポスターセッション（取組発表）、グループディスカッションを通じて、「いじめをなくすための提言・具体的な取組」を作成した。

POINT3
■各小中学校独自の自治的取組の活性化
実行委員会や小松市小中学生サミットでの活動をもとに、各小中学校の実行委員が中心となり、各学校独自の自治的取組が活性化した。

■第3回実行委員会
日　時：令和4年11月18日（金）
場　所：第一地区コミュニティセンター
内　容：◇小中学生サミット前日リハーサル
　　◇小中学生サミット本番に向けた準備

ポスターセッションの様子

③小松市小中学生サミット（フォーラム）の開催
日　時：令和4年11月19日（土）
場　所：小松市立芦城中学校　体育館
参加者：小松市長、小松市PTA連合会、小松市議会議員、
　　市内小中学生、市内小中学校教員、
　　市教育委員会関係　　合計　191名参加
ファシリテーター：兵庫県立大学環境人間学部　竹内和雄 准教授
　　ソーシャルメディア研究会　学生
内　容：◇ポスターセッション（10中学校区による取組発表）
　　◇参加者全員によるアイスブレイク
　　◇市内小中学生アンケートの結果報告
　　◇グループディスカッション
　　◇意見交流　　◇感想交流

グループディスカッションの様子

④情報モラル出前授業の実施
ソーシャルディア研究会の学生が講師となり、市内小中学校16校においてSNSトラブル・ネットの危険性・ネット依存をテーマとした情報モラル出前授業を実施した。

情報モラル出前授業

事業のねらいに対する成果

・「より良い人間関係づくり」の中でも、今年度は特に「いじめ（ネットトラブルを含む）」について、小中連携の意識を向上させながら、中学校区でテーマを決め、中学生が中心となって活動内容を話し合い、取組を進めることができた。小中学生サミットでは、ポスターセッションを行い、全小中学校が自校の取組を紹介することができ、様々な取組等を発信することができた。
・小中学生サミット（フォーラム）後の実行委員の感想には、「みんなで真剣に考え、本音で話し合うことができた。サミットで決まったことを自分の学校で生かしていきたい。」という感想があった。サミット参加者の人間関係の構築やネットトラブルに対する意識の向上はもちろん、自ら課題を見つけ、課題解決のために取り組む主体性や自治的意識の向上も見られた。
・情報モラル出前授業では、児童生徒にとって身近な動画をもとにし、児童生徒は、「ネットの恐ろしさ」「ネットの危険性」「ネットトラブルの未然防止」を再認識することができた。教員にとっては、ネットトラブルに関する知識が向上し、情報モラル教育を推進していくための良い機会となった。

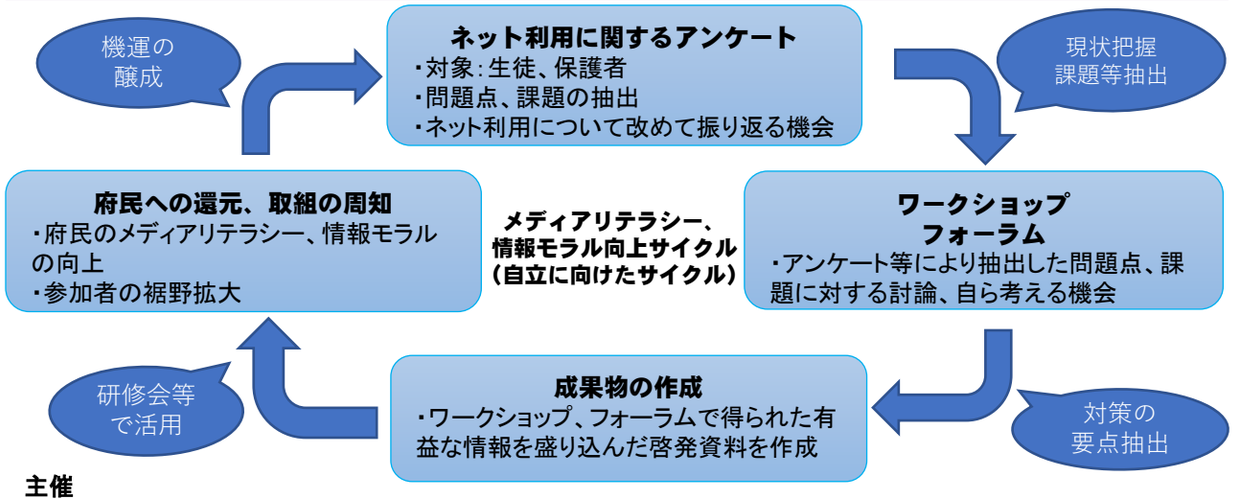
課題と今後の展望

・小中学生サミットの企画・運営・取組を通して、ネット、不登校やいじめの問題等、教育課題の解決に向け、子供たちが主体的に魅力ある学校をつくることを目指す。
・児童会活動・生徒会活動の活性化を図り、児童生徒の主体性や自治的意識の向上につなげる。
・保護者・地域の方へ積極的に発信し、地域社会全体で児童生徒を育てる体制の構築を試みる。
・小中学生サミットに関する取組を通じて、教員のファシリテート能力の育成を図る。

「青少年いいねット京(みやこ)フォーラム」（京都府）

府内の中学生、高校生が、自分達で適切なインターネットの利用を考え意見交換することによるメディアリテラシーと情報モラルの向上を目的として、ワークショップと公開討論会を開催しました。

事業の概要



主催
オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会

●総務省近畿総合通信局●法務省地方法務局●京都府●京都府教育委員会●京都府警察●京都市●京都市教育委員会
●京都府市長会●京都府町村会●京都府市町村教育委員会連合会●京都府私立中学高等学校連合会●京都府PTA協議会
●京都市PTA連絡協議会●京都府立高等学校PTA連合会●京都府私立中学高等学校保護者会連合会
●公益社団法人京都府青少年育成協会●公益財団法人京都市ユースサービス協会●京都府少年補導連絡協議会
●京都市少年補導委員会●公益社団法人京都府少年補導協会●公益社団法人京都府防犯協会連合会
●全国大学生協連京滋・奈良ブロック●一般社団法人電気通信事業者協会●一般社団法人安心ネットづくり促進協議会
●株式会社ドコモCS関西●KDDI株式会社●ソフトバンク株式会社●任天堂株式会社●デジタルアーツ株式会社
●株式会社ディー・エヌ・エー●ポールトゥウィン株式会社●京都弁護士会

事業のねらい

昨今、スマートフォンなどのインターネット接続機器の普及に伴い、インターネット利用者の低年齢化が進む中、令和3年中、京都府において青少年がSNSに起因する児童ポルノなどの犯罪被害に遭う事例では、中学生、高校生の割合が約9割を占めており、また、被害に遭うきっかけの約7割が青少年による投稿（配信）であるなど、青少年のインターネットの関わり方や、保護者の家庭での関わり方についての対策が必要な状況です。

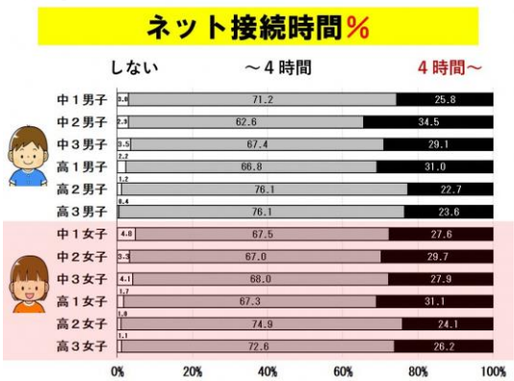
当フォーラムでは、府内の中学生、高校生や保護者等が、自分達で適切なインターネットの利用を考え意見交換するなどの取組を通じてメディアリテラシーや情報モラルの向上と、インターネットに関わる問題を自分のこととして捉え、「自ら考え、適切に行動する」機運の醸成を目的としています。

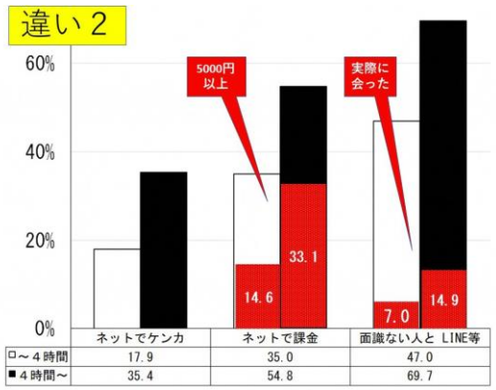
事業の内容

1　インターネット利用に関するアンケートの実施

5月から6月にかけて、府内の中学生・高校生の皆さんにインターネット利用に関するアンケート調査を行いました。（生徒の有効回答：6,272件：男子2,792人：女子3,223人：性別無回答257人　※＋保護者回答：3,499件）

主な調査項目は、携帯電話の所持率、ネット接続時間、課金経験やネットで知り合った人と会った経験の有無などで、ネット接続時間4時間未満の人とそれ以上の人との差異について調査したところ、4時間以上と答えた人は、生活面や学習面において乱れが出たり、ネットで課金したり、ネットを通じて知り合った人と会ったりした割合が高いという結果でした。





2　事前学習会

フォーラムに向けて、府内7校の中学生・高校生が7月に市内会場（京都府立京都学・歴彩館）と南部会場（八幡市立男山第二中学校）に集まり、インターネット利用に関するアンケートの結果を題材として、インターネットの適切な利用などについて考えるワークショップを行いました。

このワークショップでは、2つの会場をオンラインで繋ぎ、市内会場と南部会場の参加者の意見交換も行いました。

ワークショップ後、参加者は学校ごとに保護者、先生、企業、自治体、自分達への提言を考え、今年で6回目となるフォーラムの発表準備に取り組みました。

3　令和4年度　青少年いいねット京（みやこ）フォーラム

開催日時・場所
日時：令和4年8月22日（月）13時30分～16時00分
場所：京都府立京都学・歴彩館大ホール

参加校
京都市立岡崎中学校、京都市立春日丘中学校、
京都市立西院中学校、京都市立栗陵中学校宇、
八幡市立男山第二中学校、
京都府立鴨沂高等学校、京都府立朱雀高等学校

コーディネーター
兵庫県立大学環境人間学部准教授竹内和雄氏

内容
各校からの提言発表、企業の取り組み発表、
パネルディスカッション

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観客数を絞るなどの対策を取ったうえで、3年ぶりに会場でフォーラムを開催しました。

POINT 1
ネットでのアンケート
ネットを利用して学習端末から学校でアンケートをしてもらったことで、多くの回答が得られた。
保護者の方もネットの方が回答が多く、また、アンケートをすることで、子供のネット利用を振り返る機会となった。

POINT 2
青少年が自ら考える機会に
アンケートから明らかになった注意すべきポイントについて、皆で意見を交わすことで、インターネットやスマートフォンの適切な利用を自ら考える機会となった。

POINT 3
リテラシー向上の契機
アンケートやフォーラムから得られた情報を盛り込んだ啓発資料を作成し、学校や関係機関等にフィードバックして、生徒会や保護者会で活用してもらい、今求められているリテラシーについて考える機運を醸成させる。

事業のねらいに対する成果

フォーラムでは、参加校とパネリスト（保護者、教員、企業、警察）それぞれが各校の発表した保護者、教員などに向けられたテーマ毎の提言について、一番良いと思ったものを選び、選んだ理由や意見をそれぞれの立場から発表しました。その中で、生徒達は、子供達自身で節度ある利用を意識する「自律」の必要性を述べ、一方、勉強などの遊び以外にも使っていると説明し、保護者らに対して過度な干渉はしないで欲しいと訴えました。また、学校などに対しては、もっとネットに関する授業を増やして欲しい、トラブル時の相談室を導入して欲しいなどと求めるなど、様々な意見が交わされ、インターネットやスマートフォンの適切な利用を自ら考える機会となりました。

また、保護者の方にインターネット利用に関するアンケートを実施することで、フィルタリングの必要性や保護者と子供がお互いに話し合った上でのルールづくりの重要性などを意識づける啓発を行いました。

アンケートやフォーラムで得られた有益な情報については、グラフや啓発動画にするなど本事業の成果物として、京都府HP公開、直接学校や関係機関に送信し、それぞれ生徒会や保護者会などで活用してもらい、今求められているリテラシーについて考える機会とするための啓発を行いました。

課題と今後の展望

今回は、スマートフォンが当たり前のZ世代を対象にアンケートやフォーラムを実施しましたが、インターネットの利用者はどんどん低年齢化しており、今後は、Z世代より高度なデジタル環境にいるα世代やその保護者もターゲットにメディアリテラシーや情報モラルの向上のための啓発が必要と考えます。

今後も本事業を継続させ、関係機関と連携して広報をすることで、参加者の裾野を広げつつ、次年度は、小学校へのアンケート調査も視野に入れ、府民のメディアリテラシーや情報モラルの向上のための取組を展開していきます。

本事業の問合わせ先
オール京都で子どもを守るインターネット利用対策協議会事務局（京都府健康福祉部家庭支援課）
電話：075－414－4305　E-mail：kateishien@pref.kyoto.lg.jp

大阪の子どもを守るネット対策事業（大阪府）

GIGAスクール時代において保護者の役割が益々大きくなっていることから、令和4年度は、児童生徒及び保護者合同ワークショップにおいて、互いに課題共有や対策の検討を行うとともに、保護者ワークショップにおいて、現在の、ネット利用における課題及びその対策について情報共有を行った。

【実行委員会の構成団体】
（座長）兵庫県立大学 准教授　竹内和雄
・大阪府／大阪市／堺市　各PTA協議会
・大阪府立高等学校PTA協議会
・㈱NTTドコモ関西支社
・KDDI㈱関西総支社
・ソフトバンク㈱
・デジタルアーツ株式会社
・㈱ディー・エヌ・エー
・グリー㈱
・総務省近畿総合通信局
・大阪府府民文化部人権局人権企画課
・大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課
・大阪府消費生活センター
・大阪府教育庁小中学校課、地域教育振興課、高等学校課、私学課
・大阪府警察本部警務部高度情報推進局サイバーセキュリティ対策課
・大阪府警察本部生活安全部少年課
・大阪市こども青少年局企画部青少年課
・大阪市教育委員会
・堺市教育委員会
・青少年育成大阪府民会議

事業の概要

①OSAKAスマホアンケート2022の実施
　青少年のネット利用にかかる課題抽出
②青少年・保護者合同ワークショップの開催（2回）
　青少年と大人の課題共有と対応策の協議
③保護者ワークショップの開催（1回）
　青少年のネット利用に係る課題の共有と対応策の協議
④「事業報告書＆適切なネット利用のための事例・教材集」の作成・配付
　府内すべての小中高等学校・支援学校等に配付

・対象・実施地域
　大阪府内全域

・実施主体
　大阪の子どもを守るネット対策事業実行委員会
　事務局：大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課

・対象者
　教職員、PTA、保護者、児童生徒、青少年指導者、警察職員、学校、地域、青少年関係団体　など

事業のねらい

スマートフォンなど多機能なインターネット接続端末の急速な普及に伴い、青少年がインターネットを通じた犯罪・トラブル・いじめ等に巻き込まれる事例が後を絶たないことから、青少年が適切にインターネットを利用できるようフィルタリングの更なる普及啓発に努めるとともに、青少年のネット・リテラシー向上に向けた取組を充実させる。
特に、インターネット利用の低年齢化や、インターネットの長時間利用による依存傾向の上昇、高額な課金など、コロナ禍により顕在化した課題に対応するため、青少年と保護者が一緒になって対策を検討する。

事業の内容

①OSAKAスマホアンケート2022の実施
調査人数：小学生15,380人、中学生10,018人、高校生5,561人、保護者7,147人
調査時期：令和4年5月～8月

②-1 第1回児童生徒・保護者合同ワークショップの開催
日時：令和4年10月30日（日曜日）午後1時15分から午後4時30分まで
場所：大阪市立難波市民学習センター講堂
出席者：中高生5校14名、参加保護者等39名
内容：生徒がインターネット関係企業等よりネット・リテラシーに関する講義を受け、グループに分かれて意見交換を行い適切なネット利用について討議。
●フィルタリングの活用方法や効果についての講義（企業）
●インターネットに起因する犯罪の状況及び対策についての講義（府警察）
●OSAKAスマホアンケートの調査結果説明
●インターネットの良い点・悪い点についてグループ討議及び発表

POINT1
『青少年と大人が一緒に考える場の提供』
青少年からの「大人も一緒に考えてほしい」との声を受け、青少年と大人が一緒にネットリテラシーについて考える場を設置し、互いの意見の共有や一緒に考えることの大切さについて深めることができた。

POINT2
『大人への働きかけ』
昨今、課題となっている「ゲーム依存」や「高額課金」についての講義を受けることで、日々巧妙化するネット上のトラブルについての知識を習得するとともに、親子で共有しながらネットリテラシーを高めることを確認しあうことができた。

POINT3
『指導教材・先進事例の充実』
児童生徒を指導する際の教材や、各校で実践している先進事例、各関係機関が行っている事業やトラブル時の相談先等を収録した報告書を作成し、各学校に配付することで、各校での適切なネット利用の機運を醸成することができた。

②-2 第2回児童生徒・保護者合同ワークショップの開催
【第2回】
日時：令和4年12月10日（土曜日）午前10時から正午まで
場所：堺市立東文化会館ギャラリー
出席者：中高生6校22名、参加保護者等28名
内容：参加校の各校で考えた「親」「先生」「自治体」「企業」「自分たち」への提言を発表し、どの部分に共感するか、意見があるかを話し合った。

③保護者ワークショップの開催
日時：令和4年11月20日（日曜日）午前9時45分から午前11時45分まで
場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）特別会議室
出席者：19名
内容：今年度実施のスマホアンケートの結果から見えてきた傾向等について説明後、青少年がゲーム依存症に陥る心理状況やその対応について講義を受けるとともに、消費生活センターの相談から見る子どもたちのネット利用について「消費者トラブル事例」「SNS利用で生じる個人間取引」「健康商品や化粧品等の定期購入」に関しての講義を受けた。また、保護者同士での意見交換を行った。
●子どものインターネットの利用実態（学識）
●青少年のネット利用における依存実態やその危険性に関する講義（精神保健福祉士）
●青少年のネットゲームの利用実態やその危険性に関する講義（消費生活相談員）

④「事業報告書＆適切なネット利用のための事例・教材集」の作成・配付
各学校や地域に取組を普及・定着させるために、本事業報告と併せて取組手法（教職員等が児童・生徒に指導するための情報・素材・手引）や各関係機関が行っている事業、トラブル時の相談先等をまとめた報告書＆事例・教材集を作成し、府内全ての小中高等学校・支援学校、市町村、PTA団体等に配付

事業のねらいに対する成果

●調査結果や実例を示すことでネットとの距離感をより”リアル”に実感
・「被害実例が印象的で怖かった」「データを示して比較しているところが分かりやすかった」など、生徒からの感想や、ネット利用にあたって、「良い」「悪い」の2択ではなく、「使い方次第」であるとの共通認識を持つことができた。GIGAスクールにおけるネットを適切に活用していく意義を引き出すことができた。
・また、府内の青少年のネット利用に係るデータを示すことで、「自分事」としてネット問題をとらえることができ、学校での展開をさらに発展させるきっかけとなった。

●大人の見守る姿勢とネット知識の向上が重要
・総じて、参加生徒からの意見としては、ステップを踏んだネットリテラシーを習得するため、大人側には安心して失敗できる環境を整えてほしいとの意見であった。参加の保護者からも「子どもを信頼しないといけない」との発言があるなど、青少年の意見を保護者が真摯に受け止め、共有できたことは意義があった。

●ルールづくりには青少年の参画がポイント
・一方的な利用制限ではなく、学校や家庭でのスマホ等の端末機器に関するルールづくりにおいては青少年と一緒に考えることがなによりも重要であることを再認識することができた。

課題と今後の展望

青少年が適切にインターネットを利活用するためには、継続的に関係機関と連携した情報発信や保護者を巻き込んだ啓発を行うことが重要である。引き続き、実行委員の企業等がそれぞれの専門性を発揮し、ネットリテラシーを高める取組や被害防止に向けた取組を推進していく。また、青少年が意見表明する場は今後の施策展開においても重要であることから、青少年が主体的に考え発言できる場づくりに取り組みたい。

本事業の問合わせ先
事務局：大阪府 福祉部 子ども家庭局子ども青少年課　TEL06-6944-9150　　FAX06-6941-7679
Web：https://www.pref.osaka.lg.jp/koseishonen/nettaisaku/index.html

人とつながるオフラインキャンプ2022（兵庫県）

青少年のネット依存防止の一環として、日常生活でのネット利用を見直したい青少年を対象に、ネットから離れて自然体験等を行うキャンプを実施し、ネット依存の実態や回避方策等を調査・研究し、広く啓発する。

（青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議の構成員）
- 兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授【座長】
- 神戸親和女子大学発達教育学部　金山　健一　教授
- 神戸大学大学院医学研究科　曽良　一郎　特命教授
- 幸地クリニック
- 兵庫県立神出学園
- （一財）野外活動協会
- 淡路市ICTクラブ協議会
- あわじ次世代テック推進会
- 兵庫県PTA協議会
- こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南OB会
- 阪神南青少年本部
- （株）サンテレビジョン
- 日本放送協会神戸放送局
- （株）神戸新聞社
- （株）朝日新聞社阪神支局
- （株）ドコモCS関西神戸支店
- （一社）いえしま自然体験協会
- 兵庫県教育委員会事務局教育企画課
- 神戸市教育委員会事務局学校教育部学校教育課
- 兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課、少年課
- 兵庫県県民生活部男女青少年課
- （公財）兵庫県青少年本部【事務局】

事業の概要

1　オリエンテーション
2　本キャンプ
3　フォローアップキャンプ
- 対象者：日常生活でのネット利用を見直したい、原則として県内在住の青少年（小学５年～18歳以下）
- 応募者：34名
- 参加者：18名（小５～高３）
- 会　場：兵庫県立いえしま自然体験センター（姫路市家島町西島）
- 主　催：（公財）兵庫県青少年本部、（一社）ソーシャルメディア研究会、兵庫県

共　催：兵庫県教育委員会、青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：神戸親和女子大学 金山 健一 教授
神戸大学大学院医学研究科 曽良 一郎 特命教授
幸地クリニック 中元 康雄 精神保健福祉士
ﾒﾝﾀｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰ：（一社）ソーシャルメディア研究会　19名
技術協力：（株）サンテレビジョン、（株）ドコモCS関西神戸支店

事業のねらい

1キャンプ参加者が、人とのつながりを感じながら、野外炊事やカヌー等の自然体験活動に参加することでリアルの充実を感じるとともに、他の参加者や大学生との話し合いを通じて、自身のネット利用等の日常生活をふりかえり、今後の目標を立てることで自身の行動変容を促すきっかけとする。
2「ネット問題」の背景には、リアル社会での様々な問題が原因となっていることがわかり、問題の解決には参加者だけでなく家族で取り組む必要があることから、保護者会において、子どもへの関わり方を学ぶワークショップの実施など保護者向けプログラムの更なる充実を図り、青少年のネット依存の予防方策等の研究を深める。
3関係機関の連携により、教育目的として、ごく普通の子ども達がネット依存を回避し、ネットとうまく付き合うための方策を確立するとともに、関係者それぞれの役割を明確化し、持続可能な体制の構築に取り組むことで、他地域での実施を促進する。
4事前事後アンケートの充実を図るとともに、過去参加者アンケートを継続実施し、より正確な事業検証に基づく事業の改善や本事業の成果に基づく新たな施策の展開を図る。

事業の内容

1　オリエンテーション　　令和４年７月10日（日）　場所：兵庫県学校厚生会館

時	12	13			14				15			
分	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45
	受付	開会式			家族会					休憩	閉会式		
					ワークショップ								

…保護者向けプログラム

①開会式
②家族会
③ワークショップ
④閉会式

①

②

③

④

本事業の問い合わせ先
公益財団法人兵庫県青少年本部企画部（県民運動担当）
Address：〒650-8567　神戸市中央区下山手通5-10-1　兵庫県県民生活部男女青少年課内
Tel：078-362-3142　　E-mail：danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp　　Web：http://www.seishonen.or.jp/

POINT 1
■保護者プログラムの充実
問題の解決には、参加者だけではなく、家族で取り組む必要があることから、全３回の保護者会を開催した。会では、ネット依存外来を開設しているクリニックの精神保健福祉士によるネット依存に関する講義や子どもへの関わり方の意見交換等を実施した。

POINT 2
■スマホ部屋の設置
電波の届かない島の中で、ネットを利用できる環境（スマホ部屋）を整備し、１日１時間のフリータイムにスマホやゲーム機を「使うか」、「使わないか」を考え、選択できる機会を提供した。利用する参加者は少なく、ネットより楽しいことを見つけているように思われた。

POINT 3
■過去の参加者からのアドバイス
過去参加者がキャンプに参加した子どもに、参加した経緯やキャンプの思い出、現在の状況、参加者に対するアドバイスを行った。また、今回初めて、過去参加者がメンター・サポーターの立場で参加した。キャンプを変化のきっかけにした先輩を身近に感じてもらうことができた。

2　本キャンプ　　令和４年８月16日（火）～20日（土）　４泊５日　　場所：兵庫県立いえしま自然体験センター

時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1日目			姫路港集合 / 乗船 / 姫路港→いえしま	同席 / スマホ / 移動 / はじめの会	昼食 / 保護者面談	家族会 / 昼食 / 保護者面談	家族会 / 名札づくり	同席 / オリエンテーション	移動→乗船 / ロッジ入室 / フリータイム	いえしま→姫路港 / 解散 / 夕食 / 個人面談			ふりかえり / メンター面談	夕の集い	入浴 / 就寝 / 健康チェック
2日目	起床 / 部屋の整理整頓 / 健康チェック	朝の集い	朝食	目標の共有 ふりかえり	チーム ビルディング / クラフト	昼食	カヌー	フリータイム	夕食 / 個人面談				ふりかえり / メンター面談		
3日目	起床 / 部屋の整理整頓 / 健康チェック	朝の集い	朝食	目標の共有 ふりかえり	フリータイム	昼食	移動 着替え	海水浴 スイカ割り クラフト集め 全体写真	シャワー 着替え	夕食 / 個人面談			ふりかえり / メンター面談		
4日目	起床 / 部屋の整理整頓 / 健康チェック	朝の集い	朝食	目標の共有 ふりかえり	フリータイム	昼食	昼寝タイム	メンター面談	買い出し講座 / 移動	坊勢島買い出し		移動	夕食	キャンプ ファイヤー	
5日目			朝食	目標の共有、ふりかえり On-Line目標決め / 集合→乗船 / 姫路港→いえしま	クラフト（写真たて） / 移動 / 家族会	キャンプの歌 昼食 / 見学 / 保護者面談	昼食 / 見学	おわりの会 / 同席	フリータイム	移動	いえしま→姫路港	解散式			

…保護者向けプログラム
…認知行動療法を取り入れたプログラム

①

②

③

④

⑤

①食事づくり
②スマホ部屋
③メンター面談
④カヌー
⑤キャンプファイヤー

3　フォローアップキャンプ　　令和４年11月13日（日）　　場所：兵庫県立いえしま自然体験センター

時	9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
分	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45
	姫路港集合		いえしまへの船旅 チャーター船乗船		同席				徒歩移動				同席				家族会				昼食 / 保護者面談				同席								徒歩移動				姫路への船旅				解散式
					魚釣り / 個人面談								はじめの会				昼食					メンター面談			ふりかえり				終わりの会											

…保護者向けプログラム

①

②

①釣り
②ふりかえり

事業のねらいに対する成果

- ネットやゲーム等の遊びとは違う、大自然の中で全力で活動する楽しさやリアルで人とつながることの良さを参加者自身が感じて、考える機会を提供することができた。
- 家族会の開催や保護者とコーディネーター等との面談を実施することで、保護者としての心構えや接し方など疑問や不安を解消する機会を提供するとともに、参加者だけでなく家族で考えることの重要性への理解を深めることができた。
- 過去参加者がメンター・サポーターの立場で参加することで、リアルな経験を伝えることができたとともに、今後の自分の姿を具体的にイメージするきっかけづくりの機会を提供することができた。

課題と今後の展望

- 定員20名のところ、34名の応募があり、キャンプに参加できない申込者がいたことから、どの自治体や団体でも実施できるようにこれまでに培った仕組みやノウハウをわかりやすくとりまとめる必要がある。
- 過去参加者アンケートの結果を分析し、より良いキャンプのあり方を引き続き検討する。
- 過去参加者がメンター・サポーターに立場を変えて参加して、先輩として参加者へ語る機会を設け、キャンプを通じて意識や行動が変わった経緯をリアルな声として参加者に届け、刺激を与えられるような取組を継続する。

令和4年度委託事業「青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業」

セルフディスカバリーキャンプ（Self Discovery Camp）

青少年のネット依存への対策が喫緊の課題となっている状況を踏まえ、青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向の青少年を対象に、自然体験、生活習慣の改善、心理療法及び家族支援等のプログラムを実施し、ネット依存対策を図る。

◆受託団体・事務局：国立青少年教育振興機構

◆実行委員会

委員長：樋口　進（久里浜医療センター名誉院長）

委　員：松﨑　尊信（久里浜医療センター精神科医長）

三原　聡子（久里浜医療センター主任心理療法士）

野田　孝幸（静岡県教育委員会）

他　当機構職員4名

◆実施施設　国立中央青少年交流の家

事業の概要

1. メインキャンプの実施
＜キャンプの概要＞
・対象：ネット依存傾向の青少年
・実施地域：静岡県御殿場市
・実施主体：国立青少年教育振興機構
・メンター：当機構に登録するボランティア等14名
・参加者数：男子10名（13～24歳）
・参加者地域：関東、東海地方等
2. フォローアップキャンプの実施（上記参加者対象）
3. セカンドフォローアップキャンプの実施
（過年度参加者対象）
4. 企画運営委員会の実施（2回）

事業のねらい

1. 事業のねらい
①ネット依存状態からの脱却（ネット以外の他の活動への興味）のきっかけづくり
②集団宿泊生活による崩れた基本的生活習慣の回復
③仲間と共に活動することによるコミュニケーション能力の向上

事業の内容

1. メインキャンプ
・日程：令和4年8月13日（土）～21日（日）　8泊9日
・内容：

			6:00	7:00～	8:00～	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～	19:00～	20:00～	21:00～	22:00～
1日目	8月13日	土		バス乗車・出発						受付 荷物検査	はじまりの会 オリエンテーション 施設見学 家族会（久里浜）		仲間づくりの活動（アイスブレイク）	夕食	休憩 部屋づくり	認知行動療法	入浴	自由	洗濯等・個人の時間・日誌記入
2日目	8月14日	日	起床・部屋の整理整頓	朝のつどい	朝食	認知行動療法	ボランティア活動（草集め） 雨：掃除（セミナー、なごみ）		昼食		スポーツレクリエーション （スナッグゴルフ） ※雨天は卓球やトランプ		休憩	ネット依存学習（講義）	夕食	休憩	認知行動療法	入浴	洗濯等・個人の時間・日誌記入
3日目	8月15日	月					農作業体験（プランターづくり）　昼食：お弁当 カウンセリング			休憩	ワークショップ（アサーティブ）	休憩	野外炊事（カレー）・夕食 カウンセリング				認知行動療法	洗濯等・個人の時間・日誌記入	シャワー
4日目	8月16日	火					農作業体験（花、野菜の植え付け） 昼食：お弁当			休憩	ワークショップ	休憩	野外炊事（ほうとう）・夕食				認知行動療法	自由　入浴	洗濯等・個人の時間・日誌記入
5日目	8月17日	水					キャンプの日曜日－フリータイム－ カウンセリング		昼食 レストラン	キャンプの日曜日－フリータイム－ カウンセリング				タベのつどい	夕食	中間まとめ（焚き火）	認知行動療法	入浴	洗濯等・個人の時間・日誌記入
6日目	8月18日	木					移動	トレッキング（双子山）　昼食：お弁当					移動		ネット依存学習（講義）	夕食	認知行動療法	入浴	洗濯等・個人の時間・日誌記入
7日目	8月19日	金					オリジナル料理を考える		昼食	ネット依存学習（講義）	買いだし		オリジナル料理をつくろう 食材調達 夕食調理				認知行動療法	入浴	洗濯等・個人の時間・日誌記入
8日目	8月20日	土					創作活動（丸木のマグネット） カウンセリング		昼食	休憩	キャンプまとめ①（各自） 家族会（中央） カウンセリング	フリータイム	野外炊事（バーベキュー）				【焚火】キャンプまとめ②（発表）	入浴	整理整頓・一日のまとめ・日誌記入等
9日目	8月21日	日				片づけ清掃	おわりの会		バス乗車・出発（昼食：お弁当）										消灯　就寝

本事業の問合せ先
国立青少年教育振興機構教育事業部　事業課
電話: 03-6407-7685　E-mail:honbu-jigyouka@niye.go.jp　HP: https://www.niye.go.jp/

POINT1
●ネット依存回復者メンターの存在
本事業において、メンターの役割は大変重要であり、事業の効果を高めるメンターの構成や確保が重要となる。令和元年度において、ネット依存回復者メンターが複数おり、参加者にとっても将来メンターになることがモチベーションとなり、事業運営において大変効果的であり、キャンプの中で重要な役割を果たした。

POINT2
●フォローアップの実施
今年度参加者を対象にメインキャンプから1か月後に、また過年度参加者を対象に1年後以降にフォローアップをそれぞれ実施した。インターネットの使用状況や生活を変えようとした気持ちなどを共有し、現状認識と意識の持続・向上を促す機会を設けた。

POINT3
●日常に繋がるプログラムの実施
キャンプ後の日常生活に繋がるプログラムを取りいれて実施した。 参加者自身の規則正しい生活習慣を取り戻すため、6時起床、22時には消灯とした。また、認知行動療法を通し、現状の生活を見つめ直すとともにキャンプ後の生活や将来の目標を考える機会を設けた。

2. フォローアップキャンプ（メインキャンプ参加者対象）
・日程：令和4年11月5日（土）～6日（日）　1泊2日
・内容：

			6:00～	7:00～	8:00～	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～	19:00～	20:00～	21:00～	22:00～
1日目	10月8日	土	御殿場駅から交流の家間はバスで送迎							荷物検査・受付	はじまりの会	メインキャンプの同窓会 「再会を楽しもう」	部屋づくり カウンセリング ※希望者	タベのつどい	フリータイム	夕食	認知行動療法	入浴	フリータイム	就寝準備　消灯　就寝
2日目	10月9日	日	起床整理整頓	朝日を見よう	朝のつどい	掃除等	朝食	認知行動療法	ビジュアルオリエンテーリング「仲間と課題解決」	昼食	スポーツ大会 「スポーツの秋」		芸術に触れよう「芸術の秋」	タベのつどい	入浴	夕食	フリータイム		
3日目	10月10日	月	起床整理整頓	朝のつどい	掃除等	朝食	ジャガイモの収穫	野外炊事（ピザ作り）		おわりの会	交流の家から御殿場駅間はバスで送迎								

3. セカンドフォローアップキャンプ（平成26～30年度参加者対象）
・日程：令和元年9月21日（土）～9月23日（月・祝）　2泊3日
・内容：

			6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
1日目	11月5日	土								持物検査・受付	はじまりの会	アイスブレイク	野外炊事（ほうとう）			焚火を囲んで近況報告	片付け移動	入浴	消灯　就寝
2日目	11月6日	日	起床整理整頓	朝のつどい	朝食	認知行動療法	ワークショップ		フリータイム	昼食	おわりの会								

事業のねらいに対する成果

①ゆとりのあるスケジュールを設けつつ、体を動かすプログラムを毎日取り入れ、少しずつ体を動かすことに慣らした。その上で6日目に登山を行った。その結果、「上手に気分転換すること」や「ふだんから積極的に体を動かすこと」の項目について、「できると」と回答する割合が高まった。

②同世代のメンターを認知行動療法に参加させ、参加者に相互のコミュニケーションの中から、現状の生活を見つめ直すとともにキャンプ後の生活や将来の目標を考える機会を持たせた。その結果、「友達の相談にのったり、悩みを聞いてあげること」や「自分と違う意見や考えを受け入れること」について「できる」と回答した割合が高まった。また、保護者からも、メインキャンプから参加者が帰宅後に、学校に行くことについて、自分で考え、その考えを学校のカウンセラーや先生に伝えることができたとの、声があった。

課題と今後の展望

〇事業において大変重要な役割を担うメンターであるが、ネット依存回復者や初心者、経験者など、各々の背景が異なるため、それに合わせたメンターへの事前研修を充実させていく必要がある。

〇本事業で得られたノウハウを報告書やマニュアルに反映させ、地方自治体や関係機関へ発信する。

インターネット依存予防教室（群馬県）

群馬県では、青少年の安全安心なインターネットの利用を願ってセーフネット標語「おぜのかみさま」県民運動を推進しています。インターネット依存予防教室を通じて、インターネットの正しい利用方法を学ぶとともに、インターネット依存の予防を図ります。

（実行委員会の構成）
・NPO法人
　ぐんま子どもセーフネット活動委員会
・群馬県教育委員会事務局義務教育課
・群馬県教育委員会事務局高校教育課
・群馬県健康福祉部こころの健康センター
・群馬県生活こども部児童福祉・青少年課

事業の概要

◆動画配信によるインターネット依存予防教室の開催
動画の概要
　青少年のインターネット利用の問題点等について研究対象としている大学教授、県立精神科病院の医師、現役のプロeスポーツプレイヤーに出演していただき、それぞれの立場からインターネット依存のリスクや問題点、その予防法などについてお話しいただいた。
〈対象〉
　青少年及びその家族等
〈実施主体〉
　群馬県生活こども部児童福祉・青少年課

事業のねらい

昨今、中高生を中心として、実生活に支障が出ているにもかかわらず、自分の意思でインターネット利用を止めることができない、いわゆるインターネット依存の状況に陥っている若者が増えています。一方で、インターネットを利用した様々なサービスは、私たちの生活を便利で快適なものとしてくれています。インターネットは、私たちの生活の一部となっており、依存のリスクをおそれて、インターネットを使用せずに生活することは現実的ではありません。そこで、インターネット依存予防のための依存症予防教室を通じて、インターネット依存について学び、正しい知識、正しい情報を得ることによって、適正なインターネットの利用方法を身に付け、インターネット依存を予防するとともに、ネットリテラシーの向上を図ることで、青少年の健全育成を推進することを事業のねらいとします。

事業の内容

◆インターネット依存予防教室
　インターネット依存のリスクや問題点、その予防法などについて大学教授、精神科の医師、プロeスポーツプレイヤーにそれぞれの立場からお話しいただいた。
　【開催方法】
　新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクを考慮して、オンラインでの開催とした。
〇配信方法
　群馬県公式YouTubeチャンネル「tsulunos」による録画配信
〇配信期間
　令和5年1月18日（水）～
〇視聴回数（令和5年2月1日時点）
　209回
〇出演者
　本編パート1　講師　群馬大学情報学部教授 伊藤 賢一 氏
　本編パート2　講師　県立精神医療センター医師 今井 航平 氏
　本編パート3　講師　eスポーツプレイヤー　大友 美有 氏
〇効果測定
　視聴者に対して、アンケート調査を依頼し、効果測定を実施

配信動画の様子　その1

配信動画の様子　その2

本事業の問合わせ先
群馬県生活こども部児童福祉・青少年課　〒371－8570　群馬県前橋市大手町1－1－1
電話：027－897－2966　FAX：027－223－6526　E－Mail：jidosei@pref. gunma. lg. jp

POINT1
群馬県庁32階動画・撮影スタジオtsulunosを利用した動画撮影・群馬県公式YouTubeチャンネルによる配信

POINT2
Withコロナに向けたオンラインでの依存症予防教室（インターネット依存予防）の開催

POINT3
視聴者ファーストの動画作成（視聴者が視聴しやすい、各パート20分程度のショート動画、タイムスタンプの活用）

◆POINT1
　群馬県庁32階に整備された動画・撮影スタジオ「tsulunos」を利用した動画撮影を実施
　また、チャンネル登録者数3万人超えの群馬県公式YouTubeチャンネル「tsulunos」による動画配信を実施

◆POINT2
　新型コロナウイルスの終息の目処が立たない中、参加者の感染リスクを回避するためにオンラインでの開催を実施
　また、参加申込に、ぐんま電子申請受付システムを利用することにより、参加受付、動画視聴用URLの通知、アンケート受付等の事務を自動化することによって業務負担の軽減化を図った

◆POINT3
　研修動画等にありがちな長尺動画は、動画視聴者の負担となるため、各パート20分程度のショート動画を作成した
　また、動画概要欄にタイムスタンプを入れるなどして視聴者が見やすい動画作成に努めた

配信動画の様子　その3

配信動画の様子　その4

事業のねらいに対する成果

依存症予防教室の参加者（視聴者）にアンケートを実施したところ、参加申込103件のうち22件の回答があり、「インターネット依存の理解度」の設問に対して、「理解が深まった」との回答が13件（59．1%）であり、「どちらかと言えば理解が深まった」との回答が9件（40．9%）でした。
　また、「インターネット依存の予防に役立ちそうですか」との設問に対して、「役に立つ」との回答が11件（50%）であり、「どちらかと言えば役に立つ」との回答が10件（45．5%）であり、「どちらとも言えない」1件（4．5%）でした。
　アンケート結果から、多くの参加者が、今回の依存症予防教室に参加したことで、インターネット依存について理解が深まり、また、今後のインヤーネット依存の予防に役立つと考えていることが確認でき、今回の依存症予防教室が効果的に実施できたものと考えます。

課題と今後の展望

インターネットは便利で楽しいものですが、便利で楽しい分だけ、依存のリスクがあります。また、誤ったインターネットの利用は、依存のリスクを高めてしまいます。今回、群馬県では、中高生に向けたインターネット依存予防教室を開催しましたが、インターネット依存のリスクは、中高生に限ったことではなく、インターネットを利用する全ての人に存在します。また、インターネット依存に限ったことではありませんが、一度、依存の状態に陥ってしまうと、そこからの回復には、相当の時間、お金、エネルギーが必要になります。適切な治療を行えば、依存症の回復も可能だと思いますが、依存症にならないこと、依存症を予防することがより重要だと考えます。
　今後も依存症予防教室を継続してゆくことで、ひとりでも多くの方が、依存症について考え、依存症を予防するための行動をとるきっかけになれば良いと考えます。

（令和4年度文科省委託事業「依存症予防教育推進事業」）

依存症予防教室

「薬物・ネット・ゲーム依存症とは」 秋田・静岡・和歌山教室

保護者や教育関係者、行政関係者、支援者、地域住民に依存症の背景や仕組み、予防や支援の方法についての正しい理解を深めてもらい、自分の問題として受け止めてもらうとともに、参加者を通じ、児童や地域社会に依存症に対する正しい理解をひろげる。

事業企画　検討委員会

小林　桜児　神奈川県立精神医療センター専門医療部長
本間　史祥　子どものネットリスク教育研究会研究員
藤田みどり　茅ヶ崎地区更生保護女性会
加藤　武士　木津川ダルク　代表
近藤　京子　一般社団法人オンブレ・ジャパン代表理事
黒川奈菜子　千葉菜の花家族会代表
雨海須磨子　茨城ダルク家族会会員
松井　由美　NPO法人薬家連　理事
川上　文子　NPO法人薬家連　副理事長

事業の概要

①「薬物依存症とは」「ネット・ゲーム依存症とは」というテーマで医療従事者・研究者が講演
②ネット・ゲーム・薬物依存当事者と家族の体験談等伝える
③パネルディスカッションで開催地域の依存症問題の取組みを発信してもらい参加者との交流図る
④アンケートで講演前と後の意識の変容を調査
☆対象者
教育関係者・医療関係者・行政司法関係者・支援者・当事者・家族・地域住民
☆実施地域
秋田・静岡・和歌山

事業のねらい

“ダメ。ゼッタイ。”の視点だけの予防教育だけでは、 薬物に手を出してしまった若者やその家族を地域から孤立させ、医療につながる道を閉ざしかねず、地域社会の回復力を逓減させていきます。
また、ネット依存やゲーム依存の広がりは大きく、保護者は大きな不安を抱えています。
そのような中で、薬物依存とネット・ゲーム依存をテーマに「依存症予防教室」を開催。
回復の困難さとともに依存症は回復できる病であることを伝え、地域の相談支援体制の重要さへの理解を促し、地域の予防教育資源である保護者・教育関係者・医療関係者・行政司法関係者・支援者・当事者・家族・地域住民等の連携の一助になることを目指す。

事業の内容

教室開催日時・場所

○ 依存症予防秋田教室　8月28日(日)　秋田市文化会館
○ 依存症予防静岡教室　10月23日(日)　もくせい会館
○ 依存症予防和歌山教室　12月4日(日)　和歌山文化会館

参加者数　秋田52名、静岡76名、和歌山62名　合計190名

プログラム　13：30～16：40

1　薬物依存当事者の体験談－秋田ダルクスタッフ、静岡ダルクスタッフ、和歌山ダルク代表
2　ネット・ゲーム依存当事者―FISH代表、グレイス・ロードスタッフ
3　薬物依存者家族の体験談－山形家族会会員、やっかれん理事、和歌山ダルク家族会会員
4　「ネット・ゲーム依存とは-コロナ禍での変化」本間史祥　（ネットリスク教育研究会筆頭副代表）
5　「薬物依存とは-コロナ禍での変化」小林桜児　（神奈川精神医療センター副院長）
6　開催地域の支援者等から依存症問題の取り組み状況や問題等を出していただき、上記５人と共にパネルディスカッションを行う。

静岡教室

本事業の問合わせ先
東京都足立区竹ノ塚　5-18-9-207
ＮＰＯ法人
全国薬物依存症者家族会連合会
電　話：03-5856-4824
yakkaren@ck9.so-net.ne.jp
http://www.yakkaren.com/

POINT1
依存症問題の専門家　登壇
ネット・ゲーム依存問題では中学校の教諭である研究者が、薬物依存については第一線で支援や治療にかかわっている専門家が登壇し、依存の実態や捉え方や対応策を提供。

POINT2
依存症に苦しんできた当事者や家族が登壇
ネット・ゲーム依存や薬物依存の当事者・家族が、自らの苦しんできた体験を語り、回復の一歩を踏み出すために周りや社会に何をもとめるかを発信。

POINT3
パネルディスカッションで、双方向型の意見交換
パネルディスカッションの冒頭、開催地の支援者・医療者から開催地域での依存症問題の取組状況や課題について語っていただき、そこを議論の入り口に、依存症の予防に何が求められているのか、地域に理解と連携をどう深めていくかを議論。

取り組み内容

開催地	秋田	静岡	和歌山
後援団体	市・県・市教育委員会・県教育委員会	市・県・市教育委員会・県教育委員会	市・県・市教育委員会・県教育委員会
広告掲載	秋田魁新報	ー	和歌山新報
チラシ配布先・依頼先	県・市・23中学校・保護観察所・7病院・ダルクや家族会等８支援団体等19団体に依頼	県・市・17中学校・3病院・保護観察所・薬剤師会・小中高養護教員会・刑務所・ダルク等4支援団体等16団体	県・市・19中学校・保護観察所・刑務所・7病院・養護教諭研究会・6支援事業所・ダルク等2支援団体等21団体
準備協力団体	家族会・ダルク・病院等	家族会・ダルク・病院等	家族会・ダルク・病院等
チラシ枚数	9,260枚	9,890枚	9,938枚

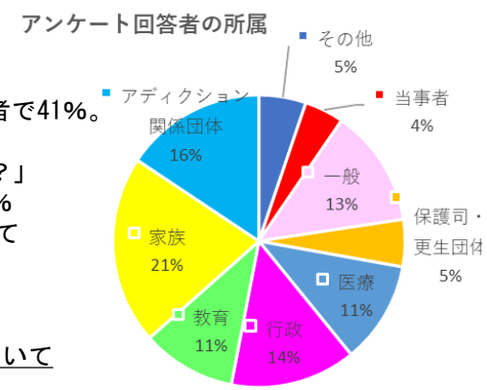
3教室いずれも開催地の県・市と県・市教育委員会から後援を受け、関係機関を通じ依存症問題に取り組む方々や、保護観察所通じ保護司の方々、また会場市の市立中学校の教諭と生徒(保護者)の皆さんにチラシを配布させていただくとともに地元新聞に掲載を依頼等多くの団体の協力を得て取り組む。

和歌山教室

事業のねらいに対する成果

参加者190名中アンケートに回答115名
（秋田29名、静岡41名、和歌山45名）

1、参加者の所属は？
右グラフにみるように保護司・医療・行政・教育関係参加者で41%。



2、アンケート回答から、意識の変容が明らかに
「今までこのような講演会に参加したことがありますか？」
「ない」　38名　33.3%　、「ある」76名　66.7%
「今回の依存症予防教室はいかがでしたか？」　について
「大変参考になった」103名　92.8%　、
「どちらともいえない」8名　7.2%
受講前と受講後で、変化が大きかったものの
1位：「使用障害や依存症とはどういうものか」について
「よくわかった」12.3%→49.1%　36.8%増
「よくわかった」「大体わかった」合わせると　70.2%→94.6%　24.4%増
2位：依存症の相談や治療を助けてくれる機関について
「よくわかった」が　11.4%→42.0%　30.6%増
「よくわかった」「大体わかった」合わせると64%→92%　28%増
3位：使用障害や依存症の自助グループについて
「よくわかった」が　15.8%→45%　29.3%増
「よくわかった」「大体わかった」合わせると59.7%→92.7%　33%増
アンケートには、「講師の方々が素晴らしい。当事者の方々の話も分かりやすかった」（行政）「共感することも多く、教室に参加して良かった」（行政）「それぞれの立場の方の話に刺激をうけた」（教育）等々の声が寄せられ、３教室とも参加者の依存症への理解が深まったことがわかる。

課題と今後の展望

今年度から前もって教室で何が聞きたいかアンケートを取り、それにこたえる形で基調講演が行われた事や、準備の段階からご協力いただいた医療、行政、保護司、教育関係者等それぞれの地域で実際に依存症問題に携わっている参加者の方々から現状説明や意見を積極的に聞く工夫をした事で、会場と一体となったパネルディスカッションができ地域連携の一助になったと思う。
この予防教室に取り組んで５年、依存症問題への取組が関係機関の中で少しづつ進み教室開催が待たれている土壌が広がっており、予防教室が各地で開催される意味は大きいと感じている。依存症問題の理解を広げ、予防に取り組む方々と地域住民の連携の力となるよう今後も各地で取り組んでいきたい。